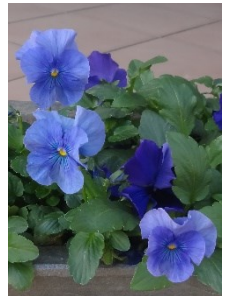




2023年2月
第734号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



教会は誰のものでしょうか

平塚教会牧師 北川一明

そこで十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。
「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食
事の世話をするのは好ましくない。それで、兄弟た
ち、あなたがたの中から『霊』と知恵に満ちた評判
の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せ
よう。わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念す
ることにします。」

(使徒言行録六・2～4)

右に掲げた使徒言行録を現代の教会に当てはめると「十
二人」とは牧師・伝道師です。「七人」が役員・長老です。
選ばれた七人の中には殉教者ステファノもいました。
七人と十二人と、人格的、信仰的に優れているのがどち
らかは何とも言えません。十二人は「偉い」のではなく
御言葉に奉仕する「務め」を神から与えられているの
です。

教会は誰のものかと言えば、もちろん「神のもの」に
は違いありません。しかし使徒言行録で分かる通り、十
二人は教会の指針を普遍的なかたちで示します。七人は
信徒集団が信仰生活をする上での指導をします。集団の
指導者七人を選出したのは「兄弟たち」です。つまり教
会の意志決定をしたのは十二人でも七人でもありません。
「兄弟たち」でした。

この信徒集団が、今の教会です。そして「兄弟たち」
が今と言う「現住陪餐会員」、七人を選出した場が「教会
総会」です。

現住陪餐会員は、神の言葉に奉仕する牧師・伝道師を
外部から招聘し、一定期間、務めを担ってもらいます。
その一方、内部からは信仰の指導者を選び出して指導し
てもらいます。

このように教会の現在と将来について意志決定をする
責任を負っているのは牧師ではありません。役員でもあ
りません。現住陪餐会員です。その意味では、教会は「現
住陪餐会員のもの」です。

現住陪餐会員になるのは簡単です。「二人の語った

目次

教会は誰のものでしょうか 牧師 北川一明 …1	三年ぶりの記念写真 …4
神様からの賜物 阿閑牧子 …3	編集後祈 …4

言葉を聞いて信じた人は多く、男の数が五千人ほどになった(使徒言行録四・4)」とある通り、信仰を告白して洗礼を受ければ良いのです。それだけで教会は自分(たち)のものになります。

その分責任も生じます。いちばん大きな責任は牧師・役員にふさわしい人を選ぶことです。そこで信徒は教会の現状に精通している必要があります。いつも主日礼拝に出ているという意味で「現住、陪餐会員」と言われるのです。

現代は、昔と比べて生活拠点を他所へ移すこと(引っ越し)が容易かつ頻繁になりました。

引っ越したら出席し易い教会に籍を移すのが原則ですが、すぐに適当な教会が見つかるわけではありません。また一時的な移住もあります。そこで日本基督教団の示す教会規則のひな形では「礼拝に出席し、献金そのほかの教会員としての責任を負う信徒を現住陪餐会員、それ以外の信徒を不在会員とする」としています(各箇教会規則準則第11条第②項)。

平塚教会の規則は、このひな形を採用せずに、他住会員という教会籍は設けません

でした。これは規則違反ではありません。平塚教会が従うべき日本基督教団規則では「信徒は、陪餐会員と未陪餐会員に分けて登録しなければならない。ただし、未陪餐会員の不在教会ではこの限りではない」とされています(教規第135条)。他住会員という教会籍は設なくともかまいません。信仰は自分で選び取ったものです。平塚教会は「最後まで自分の決断に責任を負うべし」と考えたのでしょうか。素晴らしい志だと思います。

ただ近年は信徒の生活状況が大きく変わりました。

交通機関が発達したので遠くの教会にも通えるようになりました。平均寿命が延びました。どちらも嬉しいことです。しかし籍を置いた教会が徒歩圏外ですと、高齢になると簡単には礼拝に出席できなくなります。

そこで平塚教会で新しく作った教会籍が「他住・在宅陪餐会員」です。教会総会に出席する義務を負わない他は、現住陪餐会員と変わりません。恒常的に礼拝に出ることが出来ないことがほぼ確定しているかたに「他住・在宅陪餐会員」籍を利用し

ていただければと思っています。

常に教会にこころを向けているものの、高齢でなかなか出席はかなわなくなつたというだけなら、教会総会の日に出席できることもあり得ます。現住陪餐会員から籍を移す必要はありません。最近の教会事情が分からなければ、教会総会中の投票場面では「事情に精通している教友を信頼して意志決定を任せる」という意味で棄権することもできます。

総会議決権委任のありかたは、教会として再考する時期かもしれません。

教会籍には他に「客員」があります。教団のひな形では「他の教会に所属する信徒で、この教会の礼拝に出席し、献金そのほかの責任を負う者は、役員会の議を経て、客員とすることができる(同第12条)」となっています。

平塚教会にも他教会のかたで月定献金をご自分から申し出てくださっているかたが複数名あります。しかし教会規則では客員を規定していません。他教会の信徒のかたが礼拝に参加した時に「客員」という名称で人数をカウントしています。これについても再考する時期かもしれません。

神様からの賜物

阿閑牧子

私の夫は昨年10月4日に亡くなりました。夫はクリスチャンではありませんでした。私がクリスチャンであることをそのまま受け入れ、教会に出席することを阻むことはありませんでした。

むしろ、いろいろな理由をつけて休むことが増えると「ちゃんと教会へ行ったほうが良い。君には教会が必要だ」と注意されました。リタイア後は、教会への送り迎えを自分の仕事としていたようです。亡くなる二日前の日曜日、ベッドから「今日は送れないが教会はどうする」と聞かれ、「今日はあなたの側にいます」と答えると、「そうか、悪いな」と言っていました。

その時は、ほとんど食べ物を受け付けなかったのです。翌月曜日に、知人の助けを借りて病院に行ったのですが、「血液検査の結果は問題がないので栄養点滴して帰りますよ」と栄養液を渡され帰りました。帰りには歩くこともできなくなっており、帰宅後は栄養液も吐き戻すありさ

まで、夜、病院に連絡しても「大丈夫です」。朝方トイレで倒れて、病院に電話しても「今日予約している時間に」と言われ、「救急車を使ってもよろしいですか」と問いつわると「そこまでする必要はない」と言われました。

ところがその日、思いもかけず北川先生がお電話をくださいました。

北川先生は、平塚に赴任されたとき、夫が会員になっていたスポーツクラブのプールに御夫妻で入会されたのです。お互い牧師であること、教会員の夫であることも知らず、良き友としてお付き合いが始まったようです。ある日、夫が私に「君の教会の牧師先生は北川先生か」と言われびっくりしました。先生もびっくりなさったようです。私は、その頃先生とお話したことなく、まして奥様のお顔は存じ上げませんでした。「あなたが私より先に先生と親しくなっているなんて」とつい文句が出ました。先生御夫婦とのお付き合いはとても楽しかったようです。先生が教会に近いスポーツクラブに移られ、夫は寂しがっており、それでも教会へは、どんなに先生からお電話や訪問を受けても頑として行きませんでした。宗教に対して何かこだわ

りがあったようです。

北川先生が来て下さることを夫に伝え、と「そうか何時頃に、着替えなくては」と申し、私はそのままと言いましたが「みつともない恰好は嫌だ。ズボン・シャツきちんとしたものを靴下も」と言って着替えました。思えばこれが最後の会話の記憶です。

先生の車で病院へ着いたとき夫は既に危ない状態でした。それから一時間、先生は夫の命が尽きるまで私を励まし、臨終のとき祈りを捧げて下さいました。すぐに私は、夫の葬儀を先生にお願いしました。私は、夫は先生に導かれて天国の門を叩いたと信じております。スポーツクラブの出会いも神様の導きであったと信じます。夫は良き友を得たのです。

私は最後の日まで夫と共に過ごせたことを感謝しております。ご近所の助けや友人達の支えを受けました。全て神様からの賜物として感謝して生活したいと思います。

最後に北川先生の厚い友情に深く感謝申し上げます。





三年ぶりの記念写真

一
二
〇二二年度は、コロナウイルス発生から三回目の御
降誕日となりました。平塚教会では、コロナウイル
スと付き合いながらもコロナに屈しない信仰と教会

形成を願い、今年度の御降誕日を迎えることとしました。

十二月十八日に行われた燭火礼拝は、司式者と会衆の応答
に金子裕美姉の奉唱を取り入れた純典礼儀式にて実施しまし
た（純典礼儀式は一月一日の主日礼拝でも実施されました）。
そして礼拝終了後には、聖歌隊を中心に参加者全員で、讃美
歌を10曲ほど唱和、三年ぶりに灯に囲まれた教会から、賛美
の歌声が響き渡りました。

二十五日の御降誕日礼拝には、74名の方が来会し、主の御
降誕を感謝し聖餐を授かりました。予想以上の人数であった
ため、受付では準備したプリントが足りなくなり急遽印刷、
一階集会室に礼拝席を設けるなどに追われました。

また、今年度もコロナウイルス感染を避けるために祝会
は行いませんでしたが、三年ぶりに礼拝堂に集合して記念写真
を撮りました。掲載写真は、直前にマスクを外して写した二
枚のうち一枚です。三年ぶりにお会いする皆様のお顔はい
かがでしょうか？ 小さいので拡大鏡にてご覧ください。

（月報「おとずれ」を割付している戸部勲さん撮影）

編集後祈

二〇二三年も一月が過ぎました。平和の年はいつやって来
るのでしょうか。地球上にある196ヶ国中、45ヶ国が内戦及び
紛争中とのこと。その全ては人が生みだしたものの。キリスト
の平和が今年こそ全世界に……と祈るばかりです。

（編集子）